



福祉見てある記④

「ひごっこジャングル」

熊本市清水町の坪井川緑地に、「ひごっこジャングル」という大型の児童遊具施設があります。熊本城の石垣をイメージしたという展望台をシンボルとして、その周囲に長さ30mのローラー滑り台や螺旋状の滑り台など、152ものアイテムが組み合わされた、子どもたちに人気の遊び場です。今回は、子育て支援という観点から、この「ひごっこジャングル」を管理・運営している熊本市公園課の弓削さんと里さんにお話を伺いました。

この施設は、(財)日本宝くじ協会から寄贈されて、平成20年4月に設置されました。設置場所については、当初は設置スペース(約3,000㎡が必要!)、駐車場などの条件から、坪井川緑地のほか八景水谷公園や江津湖公園も候補に挙がっていたようです。デザインは、宝くじ協会が提示した7つほどの案から熊本市の側で選んで、現在のデザインに決定したそうです。



子ども向けの遊具ですので、安全面が気になるどころです。第2・第4月曜の休業日に設備点検をおこない、日頃も始業前に点検しているそうです。また、シルバー人材センターに委託して、2名の監視員が常駐しています。

さらに施設自体も、安全のための細やかな配慮がなされています。地面にゴムチップ舗装がなされているのはもちろん、滑り台の手すりなどには、首や肩にかけているストラップなどが引っ掛かってしまった場合にもすぐに抜けるような工夫が施されているそうです。巨大な遊具はまだちょっと恐いという小さな子どもも遊べるように、傍らに小型の遊具も設置されています。



ただ(ここからは私たちの見解も入っていますが)、安全に関しては、どれほど対策を講じても万全ということはありません。逆に、100%安全という場所で遊んでも、冒険心の旺盛な子どもにとって面白くはないでしょう。子どもの成長過程においては、遊びのなかで危険を学ぶということが必要だとも考えられます。したがって利用者も、つねに危険があるというリスクへの意識を持ちながら遊ぶということが必要です。なお、この「ひごっこジャングル」に限らず市内の公園の設備について、市役所には利用者から日々さまざまな声が寄せられており、それらの情報を担当者間で共有し、適宜対応しているそうです。

ところで、利用者の動向はどうでしょうか。利用者の延べ人数についての統計資料を見せ

ていただきました。それによると、昨年度（2009年4月～2010年3月）にもっとも利用者が多かった月は4月で、延べ約3万5千人もの来場がありました。つぎに多いのは3月（約3万4千人）、そして5月（約2万7千人）、10月（約2万6千人）、11月（約2万3千人）と続きます。春、暖かくなって来た頃と、秋になって暑さが和らぐ頃に、とくに人出が多いようです。時間帯ごとにみると、年間を通して午後2時台から3時台がもっとも賑わうようです。ただ、夏場はやはり暑さのせいか、利用者がやや少なく、時間帯も分散されています。



親子で過ごす憩いの場所として、さらに充実させるために、課題もあります。これまでは遊具施設に特化してきましたが、今後は木を植えたり水飲み場を設けたりして、単に子どもを遊具で遊ばせておくだけでなく、木陰にシートを敷いて親子一緒にお弁当など食べたりするような、ふれあいや憩いの場にしていきたいと、公園課の方は話されていました。

また、休日などに駐車場が混み合うことや、休業日が十分に周知されていないため、知らずに休業日に来た利用者をガッカリさせてしまうことなどが、日頃の悩みだそうです。駐車場の混雑については、休日はできるだけ公

共交通機関を利用させていただきたいというのが公園課の方からの願いです。

今回題材にした坪井川緑地の「ひごっこジャングル」のほかに、熊本市では子育て支援に関する公園の取り組みが行なわれつつあります。たとえば、北九州での実施例をヒントにして、平成中央公園の一角をフェンスで囲ってゴムチップ舗装をし、1、2歳くらいの子供がスプリング遊具などで遊べるようなスペースを設けているそうです。

下に、「ひごっこジャングル」の施設情報を掲載します。お出かけの際は、休止日・利用時間にご注意ください。

【利用時間】

4月から9月：午前8時30分～午後6時
10月から3月：午前8時30分～午後5時

【休 止 日】

毎月第2・第4月曜日

（ただし月曜日が祝祭日のときは火曜日）
年末年始（12月29日～1月3日）

*その他、雨天・台風時等および点検整備の都合で、臨時に休止する場合があります。

【交 通】

電車：熊本電鉄 坪井川公園駅または北熊本駅
バス：熊本電鉄バス 室園町バス停または打越橋バス停

*休日は駐車場が混雑しますので、公共交通機関をご利用ください。

最後に、お忙しいなか取材にご協力くださった公園課のお二人に、この場を借りてお礼を申し上げます。

（本研究所研究員 長友敬一 倫理学）
（本研究所研究員 杉本 学 社会学）